

第4回 高根沢町学校規模適正化検討委員会 議事録

日 時 令和4年4月21日(木) 午後6時30分～午後8時00分

場 所 高根沢町農村環境改善センター 研修室

出席者

(委 員) 佐藤(栄)委員長、小堀副委員長、森委員、佐藤(晴)委員、牧委員、岩崎委員、見目委員、檜原委員、斎藤委員、鈴木委員、榎本委員、小池委員、加倉井委員、郡司委員、飯山委員、石山委員、加藤(正)委員

(事務局) 坂本美知夫教育長

福田課長、小林課長補佐、福山管理主事、今平指導主事、渡邊係長、林主事

1 開会

2 教育長あいさつ

新年度のお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。新型コロナウイルス感染症の状況が変わらない中で、学校での感染症予防対策の徹底により集団感染に至らずに済んでいることについて、関係者の皆様に感謝申し上げます。

また、コロナ禍の影響で2月・3月に予定していた会議が中止となり、本日の会議が第4回の会議となりました。本日はまず事務局から、各小学校区において開催した公聴会、過日実施したアンケート調査の結果、基礎資料の残りの部分についてご説明した後、委員の皆様からの忌憚のないご意見をいただければと思います。どうぞよろしく願いいたします。

3 委員及び事務局職員紹介

(新年度に新たに委嘱した委員及び異動した担当職員を紹介)

4 議事要約

議長(副委員長)	それでは、学校規模適正・適正配置等の検討について事務局から説明をお願いいたします。
事務局(課長補佐)	(学校規模適正化検討に関する公聴会実施報告書、学校規模適正化に関するアンケート調査結果報告書、学校の適正規模・適正配置等検討のための基礎資料の第5章「学校規模適正化のケース検討案」について、資料をもとに事務局から説明)
議長(副委員長)	事務局から説明がありましたアンケート結果等について、委員の皆様一人一人のご意見又はご感想をお話いただければと思います。
B委員	「多様な意見をどのように整理すべきか?」というのが率直な感想です。どのように判断すべきか悩むところで、明確なキーワードが出せない状況です。
A委員	アンケート結果の集計を見れば、必然として、どのような学校がどのような形になるのかは見えてくると思います。しかし、アンケートの意見要望の中で一番多かったのは、「まちづくりや市街化調整区域」に関するものです。

C委員	<p>高根沢町の都市計画については、宇都宮市に含まれる宇都宮都市計画区域であって、さくら市などとは全く異なっていることが前提として認識・理解されていないと、いわば誤った回答結果になってくると思いますので、町の都市計画の担当職員をこの会議に呼んで説明を聞くべきだと思います。</p> <p>土地の利用の問題については、4万人構想検討の段階から議論となっていたわけですが、住民の方々にも十分に理解されていないものと思いますので、きちんと理解してもらえるように住民に向けて周知・広報等をする必要があるかもしれません。</p> <p>アンケートの結果を見ると、大方、学校が合併する方向で仕方がないのかなという意識をお持ちであると理解しました。しかし、どの時点で合併を考えていくのかについては、計画を示して情報提供を行い、時間をかけて住民の理解を得ていく必要があると感じました。</p>
D委員	<p>児童生徒数が減少する中では、人口減による税収減に対して、限られた予算を効率的に使う必要があるため、かなり絞られた考え方になっていくと思います。また、「農振除外」の問題については避けて通れないと感じました。町の都市計画マスタープランに具体性を持たせ、早急に「農振除外」の宅地化を進め、人口増に少しでもつなげてもらえればと思います。</p>
E委員	<p>アンケート調査については、望ましい学級数として「2～3学級」の回答が多い結果となっていますが、アンケート自体を客観的に見てみると、国の示す学級数の「数」を基準に聞いているアンケートなので、例えば保護者が「小中学校にどのような教育を望みますか？」というような聞き方であれば、結果や意見が変わったのではないかと思います。ある意味、設問の作り方が誘導的であると感じました。</p>
F委員	<p>私の意見としては、学校は再編するのがいいのだろうなと思っていますが、アンケート結果については、学校ごとの回答の比率など、もっときめ細かい詳細な集計があるといいと感じました。また、アンケートの回答に「子どもの意見を聞いた方がいい」という意見がありましたが、実際に自分の子どもに聞いてみたところ、現状と同じ、「1学年1学級」の小学校がいいという返事でした。「規模の違う学校」の子どもの「意見の違い」といった地域性を把握するような調査があってもいいかと思いました。</p>
G委員	<p>私は小規模な学校の代表ですが、保護者同士では「今年は子どもの数が少ないね」とか「どんどん少なくなっているね」というような話が出るものの、「学校の合併」というような話題は出たことがなく、「子どもたちは与えられた環境の中で満足して生活しているのかな」という思いです。「合併」は身近に感じられていないので、この会議の中でいろいろ勉強させてもらっている状況です。</p>
H委員	<p>適正規模に直結するものだけでなく、学校へのご要望やご意見をいただいていますので、対応できるものについては、学校として対応していただ</p>

	<p>ければと感じました。皆さんからたくさんのご意見があるということは、学校教育への関心が非常に高い、とも感じました。また、「子どもたちへのアンケート」については、学校で実施しているアンケートにおいて、保護者と子どもたちとの意見の違いや認識の違いが見られますので、「子どもたちがどう思っているか」についても興味があるところです。ただし、子どもたちは自分の生活する環境しか分かっていないので、「子どもたちが答えられるのか、どのように問うのか」については心配に思いました。全体として、子どもたちのことを第一に考えてくださっている方がとても多いのでありがたく思いました。</p>
I 委員	<p>私の学校については、統廃合の問題と同時に、学区の問題も関わってくると思います。子どもたちや保護者と話をする際には、中学校区が2つの中学校に分かれていることの影響が話に出ます。このまま小学校が存続する良さもあれば、中学校区が1つになることで、友達関係などの問題が生じなくなるなどの良さも考えられるため、微妙な状況であると感じています。</p>
J 委員	<p>自分の学校を良くしたいという思いで取りくんでいますので、誇りをもって学校を卒業して行ってほしいという思いです。また、アンケート結果の中に、我が校の新設校舎について「非常に不評であった」という意見があり、様々な意見があるということで認識を新たにしました。</p>
K 委員	<p>私の勤務する学校は、2年生・3年生が複式学級となっていますが、3年生が2年生の面倒を見るなど、非常によい関係性を築いています。また、小規模特認校として全町から児童が通学していますが、地域の方々は分け隔てなく子どもたちに接してくださっています。私の仕事は、小規模特認校の特色を活かし、この学校の子どもの良さを最大限引き出すことですので、その立場からは、学校規模適正化について意見を述べることは難しい状況にあります。</p>
L 委員	<p>今回のアンケートのほか、学校で実施している「学校評価」の中でもアンケートにより地域の方から意見をいただく機会があり、地域の方が様々な思いを持っていることを感じています。その思いに応えなければならないという使命感で取り組んでいるところです。また、学校に対して非常に熱心に協力してくださる地域であることも実感しています。</p> <p>「何が子どもたちにとっていいのか」など、子どもたちの意見についても、広く声を吸い上げて、判断していかねばならないと感じています。</p>
M 委員	<p>町民向けアンケート結果の集計については、30歳代、40歳代の回答が多く、これから子育てする年代の回答が多かったのではないかとことや、阿小・西小学区の回答数が多いことが気になりました。また、町外の小学校出身者の回答が多く、町外から転入してきた方の意見が反映された結果となっていると思います。様々な意見の集約は難しさを感じました。</p> <p>個人的には、1学級35人近くいる学級は運営が厳しい実態があり、1学級20人での教員配置が実現できないものか、と感じています。</p>

N委員	<p>高根沢町の学校の子どもたちは、学校の規模によらず愛校心をもって熱心に学んでおり、学校では将来に向けて導いていけるよう取り組んでいます。校長の立場としては、子どもたちに「恵まれた環境で学んでほしい」「きれいな教室で学ばせたい」という思いがあります。「教室が狭い」「トイレが洋式化されていない」ということのないよう、学習環境の整備を進めることが大事であると思っています。</p>
O委員	<p>アンケート結果の集計として出てきた「望ましい1学級の人数や学級数」については、思ったとおりの結果が出てきたと感じています。ただ、それだけでもないと思っています。これまで町内各校に勤務した経験の中では、それぞれの学校で、「一番良い学校」にしていくという姿勢で取り組んできましたので、今後どのようにしていくべきかは分かりません。</p> <p>また、子どもたちの意見は、やはり聞く必要があるのかなと思いました。</p>
A委員	<p>小学校が6校ある中で、地域連携等により、より特色を持った学校にしていった、子どもたちが「どんなことを学びたいか」、「どの学校で学びたいか」に主眼を置くと、子どもたちの意見を反映した学校編制もありえるのかなと思いました。また、町民向けアンケートの回答率が4割ということは、残り6割の意見があり、この結果だけで判断していいのかという思いもあるので、更に他の意見も聞いていく必要があると感じました。</p>
委員長	<p>アンケート結果の見方については、「回答数で見ると地域で偏りがある」という意見がありましたが、人数比率で票の重さを変えて、少数意見が反映されやすくする集計方法もあります。</p> <p>また、都市計画の話が再度出ていましたが、栃木県全体で人口が減っている中で、人口の取り合いを是正するかどうかという話であり、基本的には、「人口が減っていくこと」を念頭において、その中でどうするかという問題です。</p> <p>学校の教育環境は、「与条件：与えられた環境」であるのかもしれませんが、この環境には、お金をかけて整備していく「設備的な環境」と、「人が作り出す環境」の2つがあります。お金をかける原資が限られている中でも、先生方の努力であったり、地域との協力であったりといった「人や地域が関わるもの」は常に更新できるものですし、どんな環境条件であれ、先生方はよい教育を実現するための努力を惜しまないと思います。そうすると、アンケート結果が多様であるならば、「多様性×先生方の努力」でなんとかかならないかというのが1つの意見としてはあります。ただし、原資が限られている以上、何らかの統合等をしないと環境が整備できなくなってくるということになります。</p> <p>この検討は、事務局が「案」を作って、町の皆さんに聞いてみるというやり方の方が早いのかなという感じもします。</p> <p>また、それぞれの学校で、現在実現している教育を統合して、更に上の段階の教育を目指すという考え方がいいのではないかと思います。</p>

議長 (副委員長)	多くの委員から、「子どもの意見を聞くこと」について意見が出ました。事務局では事例等の情報はありますか？
事務局 (課長補佐)	(他市町での「子どもを対象としたアンケート」等の事例について、事務局から情報提供)
議長 (副委員長)	それでは、「子どもを対象としたアンケート」については、今後の検討課題とさせていただきます。都市計画の担当職員を会議に呼んで話を聞くことについてはいかがでしょうか？
A委員	町の都市計画マスタープランを読んだだけでは、宇都宮都市計画区域の中で、町が今後どのように都市計画を進めていくのか分らないと思います。「ここまでであれば市街化調整区域を外せます」とかでなければ東小学校も上高根沢小学校も人が増える要素はないので、担当課からちゃんと説明を受けるべきと思います。
C委員	この問題については、4万人構想の際から様々な議論が継続されてきて、結果、市街化調整区域は「外せない」と聞いています。ただし、町民の方々も「この件について知らない」という状況があるので、アンケート結果にも意見として出ているという結果になったと思います。「外せない」というものについて、担当職員に談判をしても意味がないと思います。
E委員	都市計画マスタープランを読んでみて、高根沢町としての魅力の創出が感じられないので、これで人口を増やすのは絶対無理だと思いました。 例えば、教育を充実させるため、「統廃合は進めますが、こういう魅力的な教育を実施する学校があります」という考えで、魅力ある学校が1つあれば、意識の高い保護者が引っ越してくると思います。「数の基準」での学校規模だけで判断すべきものではなく、高根沢町としての「教育の魅力」をつくることを考えていくべきであって、「教育の魅力」が作れなければ、引っ越してくる人はいないと思います。
議長 (副委員長)	話を整理しますと、この検討委員会では、「どのような教育環境としていくか」を主として検討すべきであって、「市街化調整区域」などの都市計画の部分については、この検討委員会で検討すべき事項ではないと考えますので、この会議では扱わないこととして、都市計画の担当職員の説明はしないこととさせていただきます。 また、次回の会議の進め方につきましては、いくつかのグループに分けさせていただいて、答申の方向に向けて議論を深めてまいりたいと考えておりますので、様々な角度からご意見をお願いいたします。
事務局 (課長)	以上をもちまして、第4回会議を閉会します。